

## 地域医療課題解決演習

科目担当責任者	全学教育推進機構長 佐藤洋一教授		
担当講座・学科（分野）	医学部救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野		
担当教員	佐藤洋一全学教育推進機構長 救急・災害・総合医学講座総合診療医学分野 下沖収教授、高橋智弘特任講師		
対象学年	全学年（全学部）	期間	通期
区分・時間数	演習 12時間	単位数	<u>1単位</u>

### ・学習方針（演習概要等）

患者（対象者）を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行い学ぶ、多職種連携 PBL 科目である。施設等の訪問、その他関係専門職や、対象者（住民）へのインタビューやアンケートとその分析などを、学部を超えたグループにより行い、グループとしての提言をまとめる。

### ・教育成果（アウトカム）

患者（対象者）や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。

学部を超えた少人数制グループを形成し、グループで施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種（専門職）連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。  
(ディプロマ・ポリシー：1, 3, 4, 5, 6, 8)

### ・到達目標（SB0s）

1. 対象とする医療課題に関する地域の現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくり事業における各医療職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

### ・成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度はルーブリックにより評価する。(80%)

演習内容の理解度はポートフォリオにより評価する。(20%)

### ・事前学修時間・内容

指定する事前課題について、図書館等を利用して調べておくこと。事前学修は各回1時間以上を要する。

### ・特記事項・その他

開催日：別途指定

会場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等

対象：全学年（全学部）

\*受講希望者は学内掲示を確認のうえ4月12日までに履修届を提出のこと。

\*提出されたポートフォリオについては、担当教員が次回講義等においてコメントする。

\*なお、30分以上の遅刻は欠席とする。

・実施日程

月日	時限	内容／到達目標	担当教員	会場
第1回 6月	(未定)	オリエンテーションと概要講義 1. 科目の目標と全体構成を理解し説明できる。 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。	佐藤洋一機 構長、 下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾キャンパス
第2回 6月	(未定)	グループワーク（課題理解の共有） 1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。	下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾キャンパス
第3回 7月	(未定)	検診会場等の訪問、インタビュー 1. 検診会場等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 行政職員、その他専門職等への敬意をもち、インタビューすることができる。	下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾町
第4回 8月	(未定)	グループワーク（振り返りとアンケートの作成） 1. 検診受診に関する住民へのアンケート作成について、留意事項を説明できる。 2. 検診受診に関する住民へのインタビューについて、留意事項を説明できる。	下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾キャンパス
第5回 9月	(未定)	地域イベントでのインタビュー、アンケート調査 1. 他者に対する敬意を前提とし、本音を引き出すインタビューを行うことができる。 2. アンケート調査への協力を促すため、コミュニケーションを図ることができる。	下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾町
第6回 10月	(未定)	グループワーク（アンケートとインタビューの集計・分析、プレゼンテーション作成） 1. インタビュー・アンケート結果をもとにグループディスカッションを行うことにより、地域住民の立場に立ちニーズを説明できる。	下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾キャンパス
第7回 10月	(未定)	グループワーク（アンケートとインタビューの集計・分析、プレゼンテーション作成） 1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。	下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾キャンパス
第8回 11月	(未定)	検討発表会・まとめ 1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2. 自己尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。	佐藤洋一機 構長、 下沖収教授、 高橋智弘特 任講師	矢巾キャンパス